SHIN-KUKI DISASTER NEWS VOL.2

災害時におけるキーワードCSCAとは

皆さん、こんにちは。新久喜総合病院災害対策委員会の祢津です。

第２弾である今回は、災害時におけるキーワードをご紹介したいと思います。皆さんの中には、小学校の避難訓練の時に「お・か・し・も」といった防災用語があったことを覚えている方も多いと思います。避難時の心構え「押さない・駆けない・喋らない・戻らない」の頭文字を取った標語です。同じように、医療現場において**災害医療に携わる者が知っておくべき用語の一つが CSCA** です。

災害が起きると、傷病者が多く出るため突発的な医療需要が増えます。また病院自体も被害を受けるため、人員・医療品・医療機器等の医療資源が限られます。医療需要と供給のバランスが崩れると被害が甚大となるため、災害時には、限られた人的・物的資源を有効に活用し、この需要と供給のアンバランスを極力小さくすることが重要になってきます。そのための効率的な医療活動を行うための基本原則が CSCA と呼ばれるものになります。



C:Command and Control（指揮と連携）

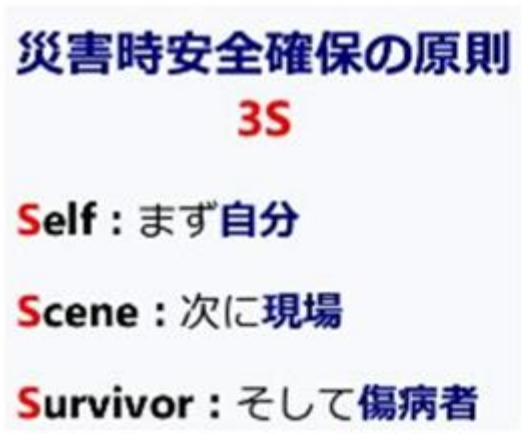


院内防災訓練の様子
志田晴彦院長を災害本部長とし、指揮命令系統の確認をしています。

災害医療では組織的に無駄なく混乱なく活動することが求められます。
優秀な人が何人集まっても、それを指揮する人がいなければ、連携がうまく取れず、船頭多くして船山登ることになります。
そのため、病院内での指揮命令系統と各部署間での連携の確立が普段よりも重要になります。



S:Safety（安全）



安全の3Sを意識することが災害時の活動において必要とされます。
災害が起きると、つい傷病者の方に目を向けがちですが、まずは自分の安全を確保してから行動することが重要です。



C:Communication（情報伝達）

災害時対応で失敗する原因で最も多いのは情報伝達の不備です。組織内での情報の共有はとても大切で、各部署への情報伝達がままならないと正しく情報が伝わらず、連携がより困難になります。
停電や断線により、電話が使用困難な時、当院では衛星電話やトランシーバーを使用できるよう常備しており、訓練でも使用しています。

ここで衛生電話について簡単にご紹介します。
当院の衛星電話はインマルサットBGAMエクスプローラ500というものが置いてあります。
静止している人工衛星を利用し通話するため、移動しながらの使用はできません。障害物の無い場所に設置し、南東方向にアンテナを向けて使用します。
衛星電話にかけ直すととんでもない額の電話代がかかるので注意が必要です。（笑）





A:Assessment（評価）



院内防災訓練時の定期報告の様子
各部署での現状を本部長に報告し、今後の方針を決めていきます。

評価というと分かりにくかもしれませんが、言い換えると「現状を把握して、今後の方針を決める」です。集められた情報を分析し、精査することで活動方針を立てる一連の活動を指します。

評価する情報の例として、院内の状況、外部からの傷病者の数などがあげられます。
災害時は絶えず状況が変動していくため、一度だけの評価で終わらせず、繰り返し行う必要があります。

災害現場では、普段顔をあわせていない人達とも共同で活動しなければなりません。各自が自由に動いてしまうと、災害医療の現場が円滑に進まなくなります。同じ方向性をもって活動を行うために、今回紹介した CSCA を覚えておき、いつ起こるか分からない災害に備えておきましょう。

文責　災害対策委員会　祢津和明　（発行：令和 3 年　5 月 10 日）